

腸管免疫研究の最前線 — 抗原提示細胞と免疫評価技術



筋野 智久 氏

慶應義塾大学 医学部
坂口光洋記念講座
消化器生体機能多次元解析講座
准教授

2005年 慶應義塾大学医学部卒業後、消化器内科に所属、
2014年より米国ロックフェラー大学に留学後、
2016年より慶應義塾大学消化器内科、内視鏡センターを歴任、
2025年より慶應大学坂口記念講座独立准教授(PI)。
専門は消化器病、内視鏡、免疫学。



辻 典子 氏

十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科
十文字学園女子大学院 研究科 食物栄養学専攻
教授
株式会社腸管免疫研究所 / フードメディシン研究所
代表

1995年 東京大学大学院農学生命科学研究科にて博士号取得後、
米国 Yale 大学 School of Medicine 博士研究員。
農林水産省、産業技術研究所、理化学研究所等のチームリーダーを経て
2021年より現職。
専門は 粘膜免疫学・共生微生物学、食品免疫学。

講演要旨

講演「腸管免疫：抗原提示細胞の最前線」 筋野 智久 氏

消化管には多くの免疫細胞が集まっています。そこでは、病原体に対して免疫反応を起こす細胞と、過剰な免疫を抑制する細胞群が存在し、そのバランスによって体内環境の恒常性（ホメオスタシス）が保たれています。近年、このバランスの破綻や回復力（レジリエンス）の低下が、腸疾患にとどまらず全身の疾患を引き起こすことが明らかになってきました。本発表では、これらのメカニズムに関する最近の研究成果を紹介します。

講演「免疫恒常性から考える食デザイン」 辻 典子 氏

免疫は「疫を免れる」ための生体恒常性システムであり、腸内環境と密接に関係しています。そのなかで樹状細胞は自然免疫と獲得免疫を橋渡しする重要な免疫細胞として知られています。ポストバイオティクスに着目した免疫調節機構を紹介するとともに、「免疫の可視化 x 食デザイン」による健康社会の可能性を考えます。

関連トピック「ヒトiPSC由来樹状細胞による抗原提示・免疫応答評価」 村松智輝 氏（株式会社リコー）

ヒトiPSC由来樹状細胞の抗原提示機能や免疫制御機能を評価する技術を紹介します。

2026. 9.30 WED
16:00~17:30

開催場所 LINK-Jラウンジ

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-10 Research Gage Building Tonomachi 'RGBⅡ' 1階

講 演

16:00 - 16:45

Q&Aセッション

16:45 - 17:00

ネットワーキング

17:00 - 17:30

創薬・バイオ関連企業の研究者、事業開発や知財担当の方、
事業化を検討するアカデミアの方など、ぜひご参加ください！

